

政策評価シート(令和4年度実績評価)

◎政策の基本情報

政策No	0302	政策名	学校教育の充実	政策主管課	学校教育課	課長名	及川 仁
政策の目指す姿	夢と希望を持ち、たくましくいきいきと育っています						
政策の方針	花巻の次世代を担う児童・生徒が、夢と希望を持ちたくましく育つためには、学校教育の充実を図る必要があります。そのために、児童生徒の学力や体力の向上を図るとともに、郷土を愛し、自己肯定感や思いやりのある豊かな人間性を育みます。また、すべての子どもが毎日いきいきと学校生活を送ることができるように特別な支援を要する子どもへの支援体制の充実を図るほか、適正で安全な教育環境の整備と家庭や地域との連携を推進します。						

1 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方	成果指標の測定方法	単位	数値区分	H31	R02	R03	R04	R05	R06
夢と希望を持つて生活している児童生徒の割合(小学生)	働き方改革や情報化の推進など激動する社会において、子どもたちが自立した社会人として生きていくためには、将来の夢や希望を、持ちながら生活する意欲や活力を保障していかなければならない。夢や希望を持って生き生きと生活する児童生徒の割合を示す指標	出典：岩手県学習定着度状況調査	%	目標値	88.50	89.00	89.00	89.50	90.00	
				実績値	88.00	88.00	89.00	87.00		
夢と希望を持つて生活している児童生徒の割合(中学生)	働き方改革や情報化の推進など激動する社会において、子どもたちが自立した社会人として生きていくためには、将来の夢や希望を、持ちながら生活する意欲や活力を保障していかなければならない。夢や希望を持って生き生きと生活する児童生徒の割合を示す指標	出典：岩手県学習定着度状況調査	%	目標値	77.00	77.00	78.00	79.00	80.00	
				実績値	75.00	74.00	75.00	78.00		
				目標値						
				実績値						

2 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「夢と希望を持って生活している児童生徒の割合(小学校及び中学校)」については、概ね目標値の割合に達しており、中学校の実績値は前年度と比較して改善傾向にある。</li> <li>児童生徒への確かな学力の保障がまだ十分でないことや、不登校児童生徒数の増加などの課題が一因となり、自己肯定感が低い児童生徒が一定数存在している。その要因として、教職員を取り巻く多忙化の環境から、本来業務である授業の質の向上のための時間や、特別な支援を必要とする児童生徒へ対応するための時間の確保が十分ではないこと、児童生徒の家庭環境の複雑化・多様化が課題の根拠として考えられる。</li> </ul>

3 政策の総合的な評価

評価区分	政策の課題と要因
B④	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的に見て、概ね順調に推移しているが、施策「学力・体力の向上」及び施策「特別支援体制の充実」について達成度が低く、政策の総合的な評価についてはやや遅れている状況にある。</li> <li>施策「学力・体力の向上」で達成度が低かった一因として、ゲームやインターネットを利用する時間が長く、家庭学習時間が全国・県平均より短いことが考えられることから、メディアに触れる時間の適正化を図ること等により家庭学習時間を確保し、ICTの効果的な活用等による授業の質の向上との両輪による学力向上を図ることが必要である。</li> <li>また、施策「特別支援体制の充実」では、ふれあい共育推進員、教育相談員、生徒支援員及びスクールソーシャルワーカーを配置して学校生活に課題がある児童生徒に対応しており、全国と比べて不登校児童生徒の出現率は低いが、増加傾向にあることから、不登校を未然に防ぎ、早期対応を図るためにも、学校及び関係機関と緊密に連携しながら、児童生徒の置かれている状況を多面的に把握し、個々のケースに対応していく必要がある。</li> </ul>

## 4 政策に対する各施策の達成度

No	施策名	成果指標名	単位	数値区分	H31	R02	R03	R04	R05	R06	
1	学力・体力の向上	小学生の教科学習における基礎基本の定着度（県平均を100とした場合の対比）	目標値		105.00	100.20	100.20	100.20	100.20		
			%	実績値		99.30		100.00	97.90		
		中学生の教科学習における基礎基本の定着度（県平均を100とした場合の対比）	目標値		104.00	98.00	99.00	99.50	100.00		
			%	実績値		99.30	100.00	100.00	98.10		
		児童生徒の「体力・運動能力調査」の全国平均を上回る項目割合	目標値		54.20	43.00	44.00	45.00	46.00		
			%	実績値		27.10	46.90	45.80	34.40		
2	豊かな人間性の育成	自己肯定感を持った児童生徒の割合（小学生）	目標値		80.00	78.00	78.00	78.00	78.00		
			%	実績値		69.00	73.00	76.00	68.00		
		自己肯定感を持った児童生徒の割合（中学生）	目標値		70.00	71.00	71.00	71.00	71.00		
			%	実績値		70.00	72.00	71.00	74.00		
		親切・思いやりの心を持った児童生徒の割合	目標値		97.00	96.00	96.50	96.50	97.00		
			%	実績値		96.00	97.00	96.00	96.00		
3	特別支援体制の充実	不登校児童生徒の出現率（小学生）	目標値		0.18	0.30	0.30	0.25	0.56		
			%	実績値		0.42	0.52	0.62	0.93		
		不登校児童生徒の出現率（中学生）	目標値		1.76	3.00	3.00	2.95	3.92		
			%	実績値		3.13	3.33	3.91	3.82		
		個別の教育支援計画を作成している学校の割合	目標値		100.00	85.00	90.00	95.00	100.00		
			%	実績値		100.00		100.00	100.00		

4 政策に対する各施策の達成度

No	施策名	成果指標名	単位	数値 区分	H31	R02	R03	R04	R05	R06
4	教育環境の充実	コミュニティ・スクールの割合	%	目標値		6.60	20.00	100.00	100.00	
				実績値		0.00	7.14	42.86		
		教育用タブレットを活用できる児童生徒の割合	%	目標値		73.30	96.70	100.00	100.00	
				実績値		57.14	100.00	100.00		
				目標値						
				実績値						

5 政策を構成する施策一覧

1	施策名	学力・体力の向上			
	施策の成果指標の達成状況	H31 C	R02 C	R03 C	R04 C
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校における学力向上は継続した課題であり、落ち着いた学級を抱える学校は県平均を大幅に下回る状況も見られることから、各小・中学校の学年・学級経営の改善に向けた取組を支援する必要がある。</li> <li>・体力向上に向けての取組については、小・中学校ともに基礎体力の向上を推進する工夫が必要である。特に小学校においては、家庭と連携しながら望ましい食習慣や規則正しい生活習慣、運動習慣の形成に向けた取組が必要である。</li> <li>・ICT支援員の増員を含め、各校を支援する体制を強化し、教員のタブレット端末等を効果的に活用して指導する能力の向上を図る必要がある。</li> </ul>			
	今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上に向けた学校の組織的な取組を一層推進するため、各小・中学校の授業や学級経営の課題を早期に把握するとともに、指導主事や学力向上支援員による訪問指導の充実を図る。</li> <li>・体力向上実践推進事業の実践校として小学校3校を継続（2年目）指定し、当該実践校における体育の授業改善や望ましい運動習慣・生活習慣の形成に向けた取組等の更なる充実を図り、児童の体力向上を図る。</li> <li>・ICT支援員による訪問指導やオンライン研修を増やし、タブレット端末等の効果的な活用方法を各校に広め、ICT教育に係る教職員の指導力向上を図る。</li> </ul>			

2	施策名	豊かな人間性の育成			
	施策の成果指標の達成状況	H31 C	R02 B	R03 B	R04 C
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事務事業は計画どおり実施され、一定の成果が見られるが、小学生の自己肯定感が低い傾向にあることから、引き続き体験的な学習の充実を図り、児童生徒が思いやりの心を育んだり、周囲から認められたりする機会を確保していく必要がある。</li> </ul>			
	今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア学習支援事業を継続し、各校が地域や学校の実態に即した体験的な学習やボランティア活動を工夫しながら実施できるよう、コミュニティー・スクール、学校地域協働活動の枠組みなども活用しながら支援していく。</li> </ul>			

3	施策名	特別支援体制の充実			
	施策の成果指標の達成状況	H31 C	R02 D	R03 C	R04 C
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育へのニーズが高まっていることから、ふれあい共育推進員や教育相談員の増員を含め、引き続き各校の体制充実を図るための支援が必要である。</li> <li>・不登校児童生徒の中には、学校の別室や適応指導教室等にも通えないものもいるため、アウトリーチ型の支援など、支援体制の充実を図る必要がある。</li> </ul>			
	今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校・学校不適応の未然防止、早期対応を強化するため、学校とスクールソーシャルワーカーや生徒支援員、教育相談員が引き続きケース会議等で情報を共有していくとともに、適応指導教室の機能強化やフリースクール等の多様な学びの場との連携、オンラインを活用した学習支援等の充実を図る。</li> <li>・特別な支援が必要な児童生徒に対応するため、ふれあい共育推進員（医療的ケア対応を含む）の適切な学校配置を継続していく。</li> </ul>			

5 政策を構成する施策一覧

4	施策名	教育環境の充実			
	施策の成果指標の達成状況	H31	R02	R03	R04
		A	C	C	C
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校施設の老朽化に伴う維持補修等の必要性が高まる一方で、少子化による児童生徒数の減少から学校の適正規模の維持が難しくなってきた。</li> <li>・ 全中学校区でのコミュニティ・スクールの設置に向けた地域連携などの取組を支援する必要がある。</li> <li>・ 学校給食センターは、安定的な学校給食の提供を行うため、長寿命化対策と老朽化対策を進める必要がある。</li> <li>・ 奨学金事業については、一定の利用者はいるものの目標値には達していないことから、制度の検証等を行う必要がある。</li> </ul>			
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の学校の在り方についてPTAや地域と共に検討しながら、老朽化した学校施設の維持補修等を計画的に実施する。</li> <li>・ すべての中学校区においてコミュニティ・スクールの設置するとともに、学校運営協議会の機能を生かした地域学校協働活動の取組を推進する。</li> <li>・ 各学校給食センターにおいて、学校給食の安定供給を図るため、優先度を鑑みながら年次計画の中で設備の修繕及び新規導入を図る。</li> <li>・ また、花巻中央学校給食センター（仮称）の整備に向けた用地検討を進める。</li> <li>・ 奨学金制度について、貸与の対象者の拡大を図る等、修学に係る経済的な支援の検討を図る。</li> </ul>				